

| | |
|------------------|---|
| Title | 芸術と経済 (三) |
| Sub Title | |
| Author | 阿部, 秀助 |
| Publisher | 慶應義塾理財学会 |
| Publication year | 1919 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.3 (1919. 3) ,p.373(97)- 382(106) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 論説 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190301-0097 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

communistic undertakings, there was a vast territory of fertile land waiting impatiently for honest settlers to come and cultivate. Some were already taking the advantage of the great opportunity offered, not for working in the interests of somebody else that they had never known before although he was now their fellow member in the Community, but for improving their own economic and social status and providing homes for their future wives and children. There was no necessity to remain poor if one was willing to work, and the burden of taxation was as slight as it was anywhere. Moreover, they lived under the freest government on earth and there was not a single thing to hinder their free and unrestricted pursuit of life and happiness. Under these circumstances, is it any wonder that the Owenite Communities were not supported with greater enthusiasm than they were? New Harmony, the most important and numerous of all the Communities of this period, had only nine hundred members. The average number of the members of the ten Communities, as far as known, was about two hundred. It is a great wonder that they drew even that number. Perhaps the novelty of the idea had attraction for some of the members, while others, who were out of work, probably sought there a temporary lodging house.

The nature of the undertaking and the time chosen for the experiment, then, seem to have been primarily responsible for the failure of the Owenite Communities.

藝術と經濟 (三)

(文藝復興期の經濟史的研究)

阿部 秀助

シエナに於ける資本主義的企業、少くとも十三世紀の後半期に於ける同市の企業的活動は主として同族の力によりしものと他は幾多の富豪が相結合して一種の放資團を組織せしものとあり、即ち前者の典型としてはトロメイ及ビコロミの兩者にして後者に屬するものとしてはサルムベニ、ボンシノリ、スコッチ等なりとす。

先づ前者たるトロメイ家に就きて考察するに同家は既に八世紀頃に其名を知られし由緒あるシエナの舊家にして、千七百十八年アレキサンダー三世シエナのバンヂネリ家より出でし人と同市との間に意志の疏通を欠ぐや、當時専ら之れが和解の衝に當りしものはトロメイ家のトロメオ、トロメイにして此一事を見ても

如何にトロメイ家がシエナ市に於て重要なる地位を有せしことを認むるを得可し、而して同家が十三世紀に於て、専ら投資的の事業に活動せし事實は千二百二十年及翌廿六年の兩年に互りて宗教上の覇權を脱せんとせしマッサ市に軍資金を供給せしが如き、或は千二百五十五年一月五日の史料の吾人に示すが如く、バルトロメオ、ペトリ、及ヂュタヴ、グイヂ等と共同出資の下に英國に於けるウチンチェスター修道院に巨額の資金を融通せしが如き、或は e. Ioro Compagni Mercanti Senesi di Francia と稱せられしトロメオ、ヂ、ヤコボが佛蘭西の各地に於ける都市、修道院、僧侶貴族等に對して資金を供給せしが如き、或はレイナルド、ヂ、ヤコボと彼れとが千二百五十四年十二月十二日を以て法王に對する資金調達の任務に服せしが如き、何れもトロメイ家が當時公私の兩方面に對して財力上の活動をなせし一端を示すものなりとす、殊に同家の資金供給上に於て最も重要なる意義を有せしものをシシリイ事件となす、之れより先き獨逸皇帝ハインリッヒ六世とシシリイ王國の繼承者たるノルマンの王女コンスタンツェの間に生れしフリードリッヒ二世は其後、羅馬及獨逸皇帝の位に即くと共にロンバルヂーの鐵冠を戴き、且つブルグンド、

シシリイ、ジェルサレムに君臨し、其人勇悍にして大度なりしが帝は千二百五十年十二月十三日を以てフオレンチノに逝くに至れり、而して帝と相納れざりしインノセント四世は此の機會を利用してシシリイ王國を自己の勢力範圍たらしめんと欲し、新たに英王ヘンリー三世に縁故ある者を以て王たらしめんとせり、然るに王弟リチャードは之れが候補者たるを辭せしを以て法王は更に王子エドムンドを以て之れが繼承者たらしむるに至れり、當時マンフレットはシシリイ貴族の援助の下に其勢當る可からざるを以て之れを打破する爲めには勢ひ巨額の軍資金を投じて同國を平定する必要あり、斯くてヘンリーは英國内にある資源を擔保として巨額の資金をシエナ及フロレンスの富豪に求むるに至れり、而してトロメイ家の人々にして此事件に關係を有せしはアレキサンダー四世の資金調達者たりしトロメオ、ヂ、ヤコボ、リナルド、ヂ、ヤコボ、法王應に對する代表者たるクリストフォロ、トロメオ、英國方面の代表者たるヤコブス、テチ、其他千二百六十三年ウルバン四世と不和の際に之れが調停者たりしビエトロ、クリストフォリ等なりとす、千二百六十四年十一月十八日アレキサンダー四世は其死に先ちて皇帝に味方せしシエナ

に破門の宣告を興ふると共に、同市の商人に對する外國人の支拂を禁止せしむるに至れり、殊に彼れに次で法王の位に即きし佛蘭西人ウルバン四世は更に千二百六十二年を以て之れを勵行せしめし爲め同年九月に於けるアンドレア、トロメオの市場報告書が吾人に示すが如く、英佛兩國殊に英國に於けるシエナの商人は自己の貸與せし資金を回收すること能はざる爲め少からざる困難に陥るに至りしかば、是等の大商人中には自己にとりて不利益なる同市の政策を排せんとして千二百六十二年十二月市廳と衝突し其結果ビコロミニ、ドロメイ、サラチニ、ガララニ、サリムベニ、マラヴォルチの如き富豪何れも他に移住することとなり、爲めに市の經濟上に於ける打撃甚しきを以て市民の中には之れが復歸運動をなせしものありしも、他迄法王に味方するを自己の利益なりと信せし彼等は單に市民の厚意を拒絶せしのみならず同時に市民と一戦を交ふることを決するに至りしかば、市民中の皇帝黨は遂に激してビコロミニ、トロメオの邸宅を焼き其他法王黨の所有財産を破壊するに至れり、千二百六十三年五月法王黨の軍はマンフレットの兵と衝突し、此戦鬪に於て法王側の魁首たるツチオ、トロメオ(ヤコボ)、チリナルド、ヤコビは戦

死し、同じくトロメオ家に屬するピエトロ、クリストフォリ、メオ、レナルド、メオ、チ、インコントラトはビコロミニ家の二三者と共に捕虜となり、千二百六十三年九月、一萬三千「リール」の賠償金を以て辛じて釋放せられしものなりとす、只だ此衝突の爲め幾多の人命を失ひし富豪は法王との和解によりて大なる經濟上の利益を受くるに至り、即ち寺院方面の支拂禁止は解除せられ彼等は自己の債權を自由に要求し得ると共に何等破門の刑に處せらるゝことなくして國際的取引に従事し得ることゝなれり、而して此事實はウルバン四世が千二百六十三年一月六日に佛蘭西駐在の公使たるミロに與えたる御教書の明かに吾人に示す處にして、トロメオ家の人々にして其解除を受けし人名中にはベトルス、クリストフォリ、アンドレア、クリストフォリ、ど其甥グイレルムス、レナルヂ、メウス、レナルヂ、ウゴー、インコントラツス、ヂュウス、グイド、ルテレンギ、ヤコブス、ダベネ、メウス、ダベネ、メウス、インコントラチ、テングス、コントラチ、ゲリウス、ポニンコントリ等あり、其後千二百七十年に至り一時オロメオ家の財的活動は全く史上より消去せり、斯くの如きはスコッチの場合に見るが如くボンシノリ及フロレンスの商人の爲めに市場より驅逐せられ

し如し彼の千二百五十三年より千二百六十九年に至る迄ジャンパーニユ及英國方面に於けるトロメオ家の代表者として活動せしアンドレア、デ、クリストフォロが千二百七十五年以後、フランダー方面に於けるボンシグノリの代表者となれるが如きは、多少此間の消息を語れるものなりと信ず、千三百九年ボンシノリーの破産と共にトロメオ再び其頭を擡げ、豊富の經驗を有せしアンドレア、デ、クリストフォロの復歸と共に新たに社中の人となりしものにはフレデリゴ、リナルデ、ビエトロ、デ、ミノデ、クリストフォロ、ニシオ、デル、フ、イルデブランデノ、デ、トロメオ等あり、斯くて再び舊時の盛況を見るに至れり、試みにスコッチ會社を以てトロメオ會社に比較するに前者が三十七人の社員中、僅かに同族五名なるに對してトロメオ會社は二十五人中、二十一名は同族より成れり、此點に於てトロメオ會社はスコッチと異なりて十三世紀に於ける殆んど純乎たる同族的企業組織と稱することを得可し。

次にビコロミニの起源に就きては何等史料の徵す可きものなきも千二百二十六年トローアの各市に於てキヨルン大僧正の代表者たるゲルハルト、スカルフ、ニスに資金を融通せしシェナの商人中アラマンノ、ウゴニスとビコロモ、オルトラモンチスとは共にビコロミニ家に屬せしものにして彼等は又ウゴ、ベンチベニ及ライネリオ、ロランデとの共同出資の下に千二百二十九年にキヨルン市に對して債權者の地位に立ち其他千二百三十四年より千二百五十八年に亘りて獨逸方面に活動せしヒュギー、チアラモンテセの如き佛蘭西方面例者シャンパーニユの諸侯に對して債權者たりしビコロミニ、オルトラモンチスの如き英國方面に於けるトマシノ、アンコンタンの如き何れも同一の家系に屬せしものなりとす、殊に十三世紀に於ける同家の經營は殆んど同族の力のみによりてなされしものにして、只だ僅かに以太利以外の一、二の方面に於て同族ならざる者の活動を見しのみ、但千二百六十年以後に於けるビコロミニ家の商業的活動の中心は主として以太利殊に東部以太利に於て盛んなりしものなりとす。

更に後者の企業形體を代表する者の中にてボンシノリの起源少くとも千二百四十七年前に於ける之れが存在に就きては何等確實なる史料なし、彼のゴットロプは既に千二百四十年頃に之れが存立と國際的取引に従事せることを論せる

もエリサベット、フオン、ローン、パッサーマーの立證する處によればゴットロープ自から引用せる法王廳の文書に於ても英國及南部佛蘭西方面の文書に就きても何等徴す可きものなきことを指摘せり(一)只だインノーセント四世に關する文書の吾人に示す處によればセオバルト、セオバルデュチの如き千二百五十一年八月廿五日を以てボンシノリの一員たりしが如し、其他、グイド、ロランヂの如き同じく當時に於て出資社員たりしものなりとす、次ぎにサリムベニ家に於て其中心となりしものはサリムベネ、デイ、サリムベニ即ちサリムベネ、ヂ、ゲヴンニ、サリムベニにして彼れは専らシエナを中心として千二百七十四年活動せしが其子アレキサンドロ、ベヌチオ、ヂ、ヴンニ、ノット、チアムボロの時代に於て他方面殊に英國方面と取引關係を結び専ら同國に於ける修道院に對して資金を供給すると共に、其羊毛をフランダー方面に齎らし、又た其關係よりして此方面の貴族に對しても資金の融通を計りしものなりとす、次ぎにスコッチ商社は既に千二百四十六年四月二十八日にシエナに存し、之れが經營上の主なる人物はマルチ家のボナグイダ、ダルトットーなりとす、而して此商事會社の主として活動せし方面はマルセイユ、以太

利の海港、シャンパーニュ等にて殊にマルセイユ方面に對する同社の事業は殆んどシエナ商人の大多數によりて出資せられしものなりとす、而して此方面にありて直接其事業を經營せしはレイネリオ、ロランヂにして、彼れは千二百三十六年迄ビコロミニ家の代表者として獨逸、佛蘭西、英吉利の豪族又たは僧侶に對して資金を供給せし經驗ある商人にして、同時に彼れはマルセイユに於ける自余の以太利商人と協同して専ら此方面の物資を同國同時に方面に輸出せしものなりとす、尙ほスコッチ商事會社は一面、千二百五十三年より千二百六十年に亘りて、吾人が前に述べしシシリヤ事件に關係せしと共に、同時に當時の羅馬法王及英國王に反抗せしマンフレットに對して軍資金を供給せしものなりとす、之れを要するにスコッチは吾人が今日迄知り得る範圍にては各方面の富豪即ちマルチ、バルチ、チタヂニ、パリオニ、トロメイ等の共同の出資に基づくシエナの大商店にして殊にスタウフェン、法王、英國王、及英國に於ける修道院、以太利都市に對する資金供給者たると共にマルセイユ、シャンパーニ、シエナ方面にありて以太利内外の商人に向つて金融上の便益を計りしものなりとす、只だスコッチと法王廳との間に於ける債務上の衝突は

其後、法王廳に關する文書及英、佛兩國の史料中より全く彼れの名稱を逸せしむるに至れり、而して之れが主要なる理由としては、スコッチが資金上の貸借關係よりして法王と相納れざる傾向を生ずるに至りしと共に長年、スコッチの有力なる活動家たりしたりしヤコボ、ロメイ、ボニユグイラ、ダルト、マルチ、ラニユチオ、ヂ、ヂャヴレニ、デイ、バルチ等が直ちにボンシノリの企業に加入するに至りしことなりとす。

註一 E. v. Roon Elisabeth, Sienseiche Handelsgesellschaft des XIII Jahrhunderts. p. 48.

(む 蓋を靴購御記る依に告廣誌雜會學田三は節の文法御へ主告廣)

直榮
靴店

陽炎もゆる春の日に
爽快なる野外散歩に
激烈なる對抗試合に
最も適し
たのは?

芝三田通り木村屋パン屋向フ横町

石山洋服店

芝三田通り慶應大學前
石山洋服店

最も苦痛なる
學年は最も
樂しき春の前也
最も苦心して
作れる洋服は
最も着心持よき
元となるなり